

「とあって」と「にあって」の意味と用法
— 「ある」の後置詞化と状況の指示的特性 —

田中 寛

Meaning and Usages of “*to-atte*” and “*ni-atte*” :
Postpositionarization and Situational Indicative Features of “*aru*”

Hiroshi TANAKA

Abstract

“*to-atte*” and “*ni-atte*”, which are formed through formalization and grammaticalization of the existence and possessive verb “*aru*”, are equipped with the functional characteristics of the particles “*to*” and “*ni*” respectively, constructing fixed semantic functions. Generally, they take on information-giving and focus-marking functions, but when studied in detail, further usages that are different are observed. In addition, a certain degree of information and knowledge is necessary for these citations and limited indications, and the continuity with “*to-aru*” and “*ni-aru*”, which appear at the end of sentences, is also observed. This paper studies the above-mentioned usages based on various examples and discusses the circumstances under which these te-form postpositions are used, the conditionality, as well as the targeted situational indicative features provided to the listener by these usages.

1. はじめに一存在と所有、出現の多義性一

動詞の中でも「ある」は多種多様なふるまいを見せる動詞で、そもそも「である」が「ある」の原初的な形態と意味を賦与されているように、当該の状況を判断し、規定することによって事態の局面をあらわに差し出すという特性をもつ。「ある」についてはこれまで基本構文の中でもとくに多義的な意味構造を有することから、存在や所有という意味のほかにも様々な機能に関心が集まり、議論されてきた¹⁾。最近では野田（2017）がこの「ある」についての多義構造（polysemic structure）の具体的な現象を20の項目に分類し、それぞれの意味の生成として1) メタファーリンク、2) メトニミーリンク、3) シネドキーリンクという三種、すなわち隠喩・暗喩連鎖、換喩連鎖、転喩連鎖の「リンク」によって「ある」の意味的なネットワークを試み、詳述しているが、本稿でとりあげる「とあって」「にあって」は、項目(19)の「帰結」に準ずるものと思われる。すなわち意味(19)にならえば、「ある人にある物事（行為、出来事、思考、感情）の明確な根拠として認識される、何らかの事実が存在する」というもので、たとえば、次のような情報の切り出しと帰結をあらわすものとしての用法である。

(1) お盆とあって、新幹線は満席だ。

(2) …さすが院長のお嬢さんだけのことはあるな、って…

（野田 2017：105 の用例）

これらは「ある」の意味延長として意義付けられる。「ある」には単純な存在や所有の第一義を拡張し、「恐れがある」「傾向がある」「必要がある」などのように直観的な規定を、「恐れ」「傾向」「必要」といった概念を差し出すことで、主体の姿勢を全体的な状況として示唆する意味機能も観察される。まず、基本的な構造から確認しておく、存在、所有をあらわす「ある」は次のようにあらわれる。

- (3) a. 鍵は抽斗（のなか）にある。（ある＝入っている／入れてある）
b. 抽斗（のなか）に（は）鍵がある。（ある＝入っている／入れてある）
- (4) a. わたしは兄弟がある。cf: わたしには家庭がある。
b. 今の若者には夢があらない。

(3a)(3b)の「ある」は「入っている／入れてある」のように主体の意志の所在を明示する言い方を内包する。既知、未知という新旧の情報の提示ではそれぞれ、(3a)(3b)によって使用される傾向がある。(4a)(4b)は所有をあらわす。なお、(4a:cf)のように「には」が使用されると〈絶対所有〉の主張がきわだってくる。

一方、存在は「に位置している」「に存在する」のように類語によって拡張されるし、所有は「をいただく」「を{所有／維持／保持／堅持…}する」などによってもあらわされる。また、報告、伝達文として

- (5) 昨日、あなたを訪ねてきた人があいました。

のような例では、出現文として事態の現場所有をあらわし、しばしば

- (6)' 昨日、ある人があなたを訪ねてきました。
（＝昨日、ある人があなたを訪ねてきた[という事態があった/生起した]）

のような表現と同義である。ちなみに上記の文はタイ語では所有・存在動詞の *mii* を文頭に用いた言い方が用いられる。

- (7) *mii phûan khon-yî:pùn maa hăa khun mûawaanni.*²⁾
ある 友達 日本人 来る 会う あなた 昨日

つまり、主語があらわれず「昨日友達が訪ねてきたくという事態があった」という報告伝達文として機能する。「ある」には、こうした事態の惹起ともいべき表現への機能拡張が見られる。

次は英語では存在文であるが、日本語では現象文で示される例である。直訳では「ブロッコリーをかじっているうさぎがいる」となる。

- (8) There's a rabbit nibbling the broccoli!³⁾ (存在)
：うさぎがブロッコリーをかじっている！ (現象・事態)

英語では存在と所有が合体したような例が見られるが、(9)も発見者を上位者として眼前描写を主務とした出現・現象文の一種と考えられる。

- (9) Aha! I found the culprits. We have slugs!⁴⁾ (所有)
：いたいた！ 犯人を見つけたぞ。ナメクジがいる。(存在)

このように、「ある」「いる」の用法は対照研究の領域でも興味もたれる。本稿では「とあって」と「にあって」に着目し、「ある」が後置詞としてのふるまいの生成について若干の考察を行うものである。同時に、述語形態としてたちあられる「とある」および「にある」との相関についても言及したい。

2. 「A とあって B」の指示的特性

当該談話の切り出し、切り口として、前文に「とあって」を用いて、あたかも自明の状況のように提供する言い方がある。一種の注目表示的な働きをするもので、恒例のイベントの開催などに言及する前触れのな表現として用いられる。この形式は引用の「と」節の異形態で、後文には経験的に獲得された事態を述べるものである。具体的には次のように用いられる。

- (10) a. 連休とあって、どこも人、人、人である。
b. 給料が出たとあってか、ATM に行列ができています。

(10a, b) のように名詞、または動詞文に後接するが、形容詞文は稀少である。その際、一般に「ということもあって」のようにコト化を必要とする。

- (11) 彼は忙しいとあって、連絡一つよこさない。(⇒ということもあって)

「とあって」の意味は「というので」「ということで」「ということも手伝って」といった、一般に既知の情報、既成の事実をうけて、その事由、背景を示しながら、次例のように「として」にも近い意味をあらわす。

- (12) その本は風俗壊乱とあって、ただちに発禁処分となった。
⇒その本は風俗壊乱（に当たる）として、ただちに発禁処分となった。

ただ、次のような例では「として」は未実現の情報ゆえ、「とあって」は不自然な言い方になる。

- (13) 気象庁は沖縄では 12 日から風が強まり、海上はしけるとして、早めの対策を呼び掛けた。(朝日新聞 2017.9.11)

以下は作例であるが、提示されるイベントは「講演」「試合」といった名詞から、「新築する」「御曹司だ」といった動詞文、名詞文などに後接する。

- (14) a. 有名作家の講演とあって、会場は早くから行列が出来た。
b. 伝統の一戦とあって、球場は七万を越える観衆が集まった。

- c. 住まいを新築するとあって、妻は家計を切り詰めているようだ。
- d. 後継者が社長の御曹司だとあっては、先が思いやられる。

ここで先行研究を見てみると、グループジャマシイ〈1998〉では「〈…という状況なので〉という意味を表す」とし、「特別の状況の場合に用いられ、後にその状況で当然起こる事柄やとるべき行動を述べるという含みがある」とする。また「書き言葉で、ニュースなどで使う」ともしている。ここで「特別な場合」というのは常識的に言って、あるいは話し手聞き手ともに共有された[・][・][・][・]体験的な認識であることが前提となっている。したがって、後半の分には必然的に生起する事態が示される。(15)は同〈1998〉の用例である。

- (15) a. 大型の台風が接近しているとあって、どの家も対策におおわらわだ。
- b. 名画が無料で見られるとあって、席ははやばやと埋まってしまった。

「どの家も対策におおわらわだ」「席ははやばやと埋まってしまう」という帰結の現象はこれまでの経験から、必然的に類推される事態である。

白川編(2001)は「PとあってQ」を、「～から／～ので」とほぼ同じ意味で、PとQの間に納得できる関係が存在するということを表す」とする。

(16)は同〈2001〉の用例である。

- (16) 昨日は日曜日とあって渋谷は大変な人出だった。

いずれも中心的な意味はさほど変わらないが、成立条件については、もう少し立ち入った議論ないし事例にそった分析が必要であろう。一方、泉原(2007: 671)は「A(前項: 筆者注)とあってB(後項: 同)」について「AがBに比例するといった関係はないが、AとBの間には〈Aであれば／

だから、必然的にBだ」という自然の成り行きや因果関係のあることを表している」と述べている。また使用環境については、「主に〈カレントトピックス〉をレポートするニュースなどで多用される」が、観察や報告という趣意を際立たせるように、「身の周りの普段とは異なる特別な状況を述べるのであれば日常会話でも用いられる」（傍点、引用者）としている⁵⁾。

- (17) a. 震災後とあっては、復旧も余震を警戒しながらの作業になるだろうね。
b. 子供が学校で苛められたとあっては、親も黙ってはいられないのも頷ける。

なお、つぎのような「とあって」は「と書いてある／書かれている」の省略形の接続形であることから、分析の対象外とする。

- (18) 遺書には学校側の対応に失望したとあって、いじめがあったことを窺わせている。

また(19)のように「ある」には実質的な複数の所在を述べる意味が観察されるものについても本稿で扱う「とあって」とは区別する。

- (19) 「ねえハツミさん」と僕は口をはさんだ。「僕の学校の学食のランチは、A、B、CとあってAが百二十円でBが百円でCが八十円なんです。（「ノルウェイの森」）

以下、実例にそって、意味用法を検証していきたい。

- (20) 半月程前、一人の男を共に連れて、下高井の地方から出て来た大日向という大尽、飯山病院へ入院の為とあって、暫時腰掛に泊っ

ていたことがある。 (「破戒」)

- (21) 毎月二十八日は月給の渡る日とあって、学校では人々の顔付も殊に引立って見えた。 (同)

小説の情景・心理描写のほかにも報道文に多くみられ、「ということで」といった原因・理由につながる背景を引き合いにした言い方になっている、とりわけイベントなどの開催といった告知に顕著にあらわれる。

- (22) 鳥取県境港市の夢みなとタワーで開催中の「サメの海とサンゴ礁の水族館」(新日本海新聞社主催、鳥取県観光事業団共催)は11日、盆の時季の連休初日とあって、大勢の家族連れが詰め掛けにぎわった。
(<http://www.nnn.co.jp/news/170812/20170812005.html> 2017.10.25 検索)

一方、「とあっては」のように、しばしば「は」が後接する場合、〈23〉の波線にあるような後件において相応しくない事態が生起する。

- (23) a. 司会者が遅刻常連の彼だとあっては、会の進行が不安だ。
b. 君が嘘をついていたとあっては許すわけにはいかない。

同じくグループジャマシイ〈1998〉では「〈…という状況であるなら〉という意味を表す」とし、ここでも「特別な状況の場合に用いられ、後にその状況で当然起る事柄や撮るべき行動を述べるのに使う」と述べている。「は」の総括的な意味によって、「もはや」、「いうまでもなく」といった諦念ないし動かしがたい結果、見込みが強調される。後半には副詞「さすがに」などもあらわれる。一方、泉原(2007:671)では「対比が色濃く反映して〈ほかでもなくAであればBになるのは当然だ〉という話し手の判断を表し、Bには〈確信／予想／推測／必然的行動〉がくる」と述べている⁶⁾。さ

らに実例をあげながらみていこう。

- (24) さほど深い縁故もないのに、出版費用のあっせんを頼み、一晚厄介になった上、十一時間眠って主人が出勤したあとでのこのこ起き出したとあつては、さすがに曾根も多少気がひげざるを得なかった。
（「あした来る人」）

不確定な根拠を差し出す「とあつてか」も少数ながらみられるが、「とあつても」のような「も」の後接は今回の集めたデータには存在しなかった。ほぼ非用とみなされてよいだろう⁷⁾。

- (25) 高萩市内唯一の機能訓練に特化した施設とあつてか、1日平均30人が利用し、キャンセル待ちが出る日もある。

(<http://www.nnn.co.jp/news/170812/20170812005.html>)

なお、次のような「とあれば」は「となれば」のような事態の急変な取り立てをあらわし、「とあつて」を仮定的な情報として差し出すものである。やや古風な言い方として、「とあらば」のように用いられることが多い。

- (26) a. あなたの頼みとあれば、たとえ火の中、水の中、…
b. 我が子の命が助かるとあれば、自分の命を投げ出しても惜しくはない
c. 必要とあらば、いかなる援助もいたしましょう。

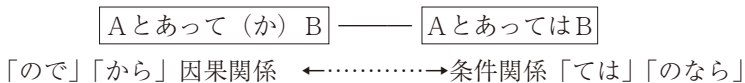
一般に「とあれば」のほうが「とあつては」よりも規定の度合いが強く、かつ慣用的な性格がみられる。また「とありゃあ」のような口語形もある。

なお、「となれば」「ともなれば」などの条件形後置詞との異同についてはここでは立ち入らないことにする⁸⁾。

- (27) 緊急事態 {とあれば／とあらば／と (も) ならば (: となったときは) } 日米が共同して対応に当たることになっている。

ここで、述語成分「とある」との相関を確認すれば、引用提示の「PCには〈使用禁止〉とあった」のような「書いてある」が簡略化した「とある」が述語化したとはいえない。しかし、形が同じであれば、何らかの意味機能の連続性があるとみるのが自然であり、他の用例も踏まえながら、その潜在的な連続性もふくめさらに観察していく必要がある。以上、「とあって」は順接の因果関係に近く、「とあっては」は既定条件に近い性格が観察された⁹⁾。

- (28)



3. 「A (という) こともあってB」などの指示的特性

「Xこともあって」は、事態のコト化、情報化を受け、またしばしば伝聞引用の「という」を介しながら「Aとあって」の言い方とほぼ同義である。注意したいのは「こともあって」のように「も」が用いられる点である。これは同意共鳴の「も」の用法の一つであると思われるが、婉曲的な意味をあらわしている。「こと」のほかに「立場」、「経緯」などの名詞もあらわれる。すでに存在する複数の背景、諸因を示唆した言い方である。ただし、次のような「(こと) もあって (か)」は経験叙述文 (29)、存在文 (30)、の用法で、接続辞としての「(こと) もあって」と区別しなければならない。

- (29) 住職は慈海と同年輩の宇田雪州である。雪州は僧堂を燈全寺で送ったこともあって、慈海とは雲衲仲間であった。(「雁の寺」)
- (30) ブースには、浴衣姿の菜々美・翼・春香・レイナが描かれた巨大な看板が建てられ、企業ブース入り口からほど近いという立地も

あってか、とても目立っていました。

(<http://www.nnn.co.jp/news/170812/20170812005.html>)

「こともあって」はある注目すべき現象を付加提示することによって、後半の説明叙述をよりたしかなものにするという意図が窺われる。「こと（など）」のほかに、「ため」「ゆえ」などもあらわれる。

- (31) そのために、友だちとの交渉をもつ機会が多くなるにつれて、交渉が下手なこともあって、喧嘩が、どの年代の幼児たちよりもたくさん起こってくるでしょう。（「一人っ子の上手な育て方」）
- (32) ボクのバスケット部時代のチームメイトが、リキマルの高校時代の友人だったことなどもあって、ふたりはすっかり意気投合。以後、ふたりでツルむようになった。（「五体不満足」）

「こと」のほかに「せい」「ため」「ゆえ」が用いられる例も多く見られ、複数の要因を加勢してあらわす。総じて断定を避けた、背景の婉曲的な提示である。

- (33) 老齢に加うるに持病のぜんそくがひどかったせいもあって、蟻螂のように瘠せた南嶽の晩年は意志だけが生きのこっているように思えた。（「雁の寺」）
- (34) 大学病院の中は日曜日というせいもあって見舞客と軽い症状の病人でごたごたと混みあっていた。（「ノルウェイの森」）
- (35) からだの調子はどこかが狂っており、昨夜は火事のためもあつて、寝つかれずに輾転とした。（「青春の蹉跎」）

「こともあってか」のように「か」がしばしばあらわれる。これは「休日とあってか」とくらべて「休日ということもあってか」のほうが、事態の蓋然

性についてより自然に述べているように思われる。

- (36) 仏教で「弔い上げ」と呼ばれる重要な節目の 33 回忌に当たることもあってか、登った遺族は昨年より 86 人多い 359 人。それぞれの家族がそれぞれのやり方で故人に語りかけ、祈った。

(<http://www.nnn.co.jp/news/170812/20170812005.html>)

- (37) 先日、札幌へ遊びに行ってきました初・北海道初・札幌初・すすきの土曜日ということもあってか、眠らなそうな街でした…

(<https://ameblo.jp/aruzefreaks/entry-12292200675.html>)

- (38) ボクに、だいぶ体力が付いてきたということもあってか、先生はボクを徒競走に参加させてもいいのでは、と考えてくれていたのだ。 (「五体不満足」)

- (39) 経済上の細かい理論はともかくとして、この経済を国際的な結びつきでみなければいけないということは、多年海外生活をし、国際関係に慣れてきたゆえもあってか、私にも直感的にわかった。

(「激動の百年史」)

「そんなこともあって」のように接続語のように用いられるケースもある。

- (40) 私は昔から字が下手で、そのせいもあって手紙や報告書を書くのが大嫌いだった。 (「心の危機管理術」)

また、「(こと)も手伝って」のように用いられ、「手伝う」のメタファー的置換によって情報の差出し、提供という意味からも類義性がみとめられる¹⁰⁾。「功を奏して」といったプラスの結果を導く場合もある。

- (41) 自分では何もすることのできないもどかしさも手伝って、みんなにどんな声を掛けたらいいのかさえ、分からなくなっていた。

（「五体不満足」）

- (42) このような事情も手伝って、トラック業者の集配コストは増加の一途をたどっている。（「日本列島改造論」）
- (43) この作業が終われば明日は休みという事も手伝ってか、全くやる気は起こらない。自らの怠惰と戦いながら、作業を順調にこなす。（kaidan-banashi.com/archives/3069）

4. 「AにあってB」の指示的特性

「にある」は元来、場所を指示するという意識が通底する。「幽霊はここにいる」「証拠はここにある」のように、当該対象となるもの（具象物・抽象物）の所在を明らかにする意図がある。したがって、対象事物、事態が一般に明示されることになる。「とあって」が名詞にも動詞句にも後接するのに対し、「にあって」は名詞句のみに後接する。動詞句・形容詞句の場合は、「～中にあって」のように「中」を介在するのを義務とする¹¹⁾。

- (44) 各球団が混迷を続けるなかにあって、このチームだけが勢いを続けている。（??…続けるにあって、…）

グループジャマシイ〈1998〉は「にあって」を「名詞を受けて〈ここで示された状況のもとで〉の意味を表す。その状況とそれ以後に述べられる事柄との関係はゆるやかなもので、前後の文脈に応じて順接の場合も逆接の場合も考えられる」とあり、次のような例を挙げている。多くが「では」に置き換えが可能である。

- (45) a. 異国の地にあって、仕事を探すこともままならない。
b. 住民代表という立場にあって、寝る時間も惜しんでその問題に取り組んでいる。
c. 大臣という職にあって、不正を働いていたとは許せない。

- d. 母は病床にあって、なおも子供たちのことを気にかけている。

非常時や特別の「場」の存在という提示ながら、(45a)などは「では」「には」との置換えが可能であるが、(45b, c, d)は「～立場にあって」は「(彼は)～立場にある」の変形で、いずれも「にありながら」という逆接を表す。

なお、前節の「とあって」に「ある」の実質的な意味が観察されたように、「にあって」も「AはBにある」文が接続の場面であらわれる場合も少なくなく、本稿で分析対象とする「にあって」とは用法を異にする点を確認しておきたい。以下の(46)(47)(48)の例がそうである。

- (46) 山小屋というビアホールは杏子も知っていた。同じ西銀座の一角にあって、杏子の店からは五分もかからないところにあった。
(「あした来る人」)
- (47) すべてが八方塞がりの状態にあって、我々としてはどうしても歯が立たないことを説明した。
(「黒い雨」)
- (48) 太陽は、穴のほとんど真上にあって、焼けた砂から、濡れた生フィルムのようなかげろうが立ちのぼっていた。(「砂の女」)

実例を見ていくと、まず「にあって」は空間、場所の特定指示という機能が観察される。ほぼ「では」、「には」に相当するとみてよい。

- (49) この孤立した部落にあって、人びとは、春に売り出す竹細工をいっしんにつくっていたのだが、喜助も小舎の壁の棚に、幾種類もの細工品をならべて、雪どけと共に売りに出るのをたのしみしていた。
(「越前竹人形」)
- (50) 私は真暗なところで窮屈な材木の下敷きになっていた。身動きの出来ない僅かな空間にあって、漸次、精神状態が正気づくにつれ薄明るい光線を見出して、その方向へ渾身の力をふるっていざり

出した。それは瓦のない屋根の下であった。（「黒い雨」）

- (51) 彼らは満州にあって、日本人が日露戦争以後苦心して築き上げてきた満蒙の権益が危機にひんしたのをみて、幣原外相の外交に不満をもっていたが、…（「激動の百年史」）
- (52) 今平穏な日本の家にあってこの光景を思い出しながら、私は一種の嘔吐感を感じる。しかしその時私は少しもそれを感じた記憶がない。嘔吐感は恐らくこの映像を、傍観者の心で喚起するためである。平穏な市民の観照のエゴイズムの結果、胃だけが反応するからである。（「野火」）
- (53) これは、外国人の妻となって異国に住む日本婦人の場合ばかりでなく、異国にあって、その土地の婦人と結婚した日本男子の場合にもあらわれる傾向であるし、さらに移民の場合もそうである。（「適応の条件」）

空間の意味的な拡張として、抽象的な社会、範囲・状況などを差し出すことも多い。

- (54) 思うに、それよりむしろ難しいのは、とくに努力しなくても何とか生活ができるというような環境ではないだろうか。そんな環境にあって、質素な生活をしながら地道に勉強していくことは至難の業と思う。（「心の危機管理術」）
- (55) 漱石は、近代人における金銭の問題を何よりも重視して追求した。金を中心に動く資本主義社会にあって、人間は金から自由でありうるか。精神の自由を守るには、何をせねばならないかを問うた。（「近代作家入門」）
- (56) インドの家族制度というものが、その社会の近代化にあって、経済的、道徳的に個人にじゃますることはあっても、個人の思想とか考え方についてはまったく解放的であるためか、日本人が、伝

統的ないわゆる「家」制度というものを目のかたきのようにしているのに対し、インドの家族制度は、インド人にとって悪徳でもなく、仇にもなっていないのである。（「タテ社会の人間関係」）

- (57) 第一部では、日本人が異なる文化と接した場合、どのような現象が起こるか、そしてその諸現象の分析に重点をおいて論じたが、この第二部では、さらにその背後にあって、日本の個々人の行動、人間関係のあり方を社会的（文化的）に規制している社会学的諸要因について考察してみたいと思う。（「野火」）

「(移り行く東京の) なかにあって」「(貧窮の) さなかにあって」のように「なか」「さなか」を併用した形式もしばしばみられる。また、「そうしたなかにあって」「そんななかにあって」は接続語的に用いられることが多い。

- (58) 江藤は両眼を大きくあけて刑事の顔を見た。しかし相手の顔は逆光線のなかにあって、まっ暗だった。彼は唇を歪めて、少し笑った。（「青春の蹉跌」）
- (59) したがって、こうした強い社会学的志向のなかにあって、転職を容易にしうる条件はきわめて限られてくる。（「タテ社会の人間関係」）
- (60) そのとき、私たちは貧窮のさなかにあって、旅費の蓄えもなく、その算段に手間取って、知らせを受けたときからまるまる 24 時間目に、やっと郷里へたどりつくことができたのであった。（三浦哲郎「忍ぶ川」）
- (61) 明代は漢民族の国家主義的反動の時代であり、科挙の試験制度はそうした中にあって、シナの文化遺産継承の一つのインスティチューションとして重要な役割を果たしたのである。（「マッテオリッチ伝」）

「にあっても」は名詞を受け、「そこで表された状況のなかにおかれていても」という意味を表す。後半では、逆条件的にその状況下で起こると予想されることとは対極の事柄が続く。

- (62) a. 彼は苦境にあっても、めげずに頑張っている。
b. 暖かい家庭の中にあっても、彼女の心は満たされなかった。
c. 母は死の間際にあっても、子供達の幸福を願い続けた。

さらに「どんな」などの不定詞をともない、無条件下での常態的な生起を表すことがある。

- (63) 日本のいかなる社会集団にあっても、「新入り」がそのヒエラルキーの最下層に位置づけられているのは、この接触の期間が最も短いためである。年功序列制の温床もここにある。

（「タテ社会の人間関係」）

- (64) 人生とは、青年期にあっても熟年期にあっても、「やってみなはれ」と、自分自身に言い聞かせるしかない未知の航路なのである。
（「百言百話」）

「にあっても」は「にあらうと（も）」「にあらうが」の逆接機能辞とほぼ同義をあらわす。

- (65) 契約書なんか形式にすぎない、そんなことをしなくても大丈夫だというのが常態なのである。タテ社会のどこにあらうとも、みなお互いによく知っている（相手の背景をよくのみこんでいる）人たちの間で事が運ばれるから（中略）、かたくるしい契約書などをしなくてもすんでいくのである。
（「適応の条件」）

一方、「にあっては」では場所や状況を著わす名詞を受けて、そこで表された状況の中では、という意味を表す。「において」という意味に近い。一般に「では」に置き換えられる場合が多い。(66), (67) はグループジャマシイ(1998)の用例で、後文には否定的な状況があらわされる。

- (66) こんな厳寒の地にあっては、新鮮な野菜が食卓にあがることなど減多にないことだった。
- (67) いつ戦争が起こるか知れない状況にあっては、明るい未来など思い描くことなどできない。
- (68) 蓮の葉にのせた胡瓜、薩摩薯、トマト、団子、菓子、果物などが供物になっていた。本山からの扶持金の少ない小寺にあっては、この盆は財源の書き入れ時といえた。 (「越前竹人形」)

泉原(2007: 65)は「ある特別な状況Bが〈Aという人の境遇にある／存在する〉ことを表しているが、人物Aの状況や境遇と、その時代の状況や背景とが〈は〉によって対比され、その時代の平均的な人々と比べると、人物Aがかなり特異な状況に置かれていたという設定で使われる」と述べている。つまり、特殊体験の語りである。空間的な指示特性の例では「社会」「特殊状況」にまつわる背景要素が多くみられる。

- (69) それは私の側からは何の感情も伴わない純粋な映像であった。戦場にあっては、或いはこれが最も正しい、ものの見方であるかも知れない。 (「野火」)

前接する名詞には「時代」「社会」「情勢」などの語彙が多くみられる。

- (70) 学位をもち財産をもてば、少なくとも現在の資本主義自由主義の社会にあっては、或る程度の個人的幸福は保証されるのだ。

（「青春の蹉跎」）

- (71) その結果、徳川時代にあってはまったく形式的な権威にすぎなかった天皇を中心に、一元的な新しい政治権力が生まれた。

（「激動の百年史」）

- (72) 十六世紀末にあっては、南欧の諸国民が誇る船舶においてさえ、規模の点で大差はなかったので、明には対倭寇用の二千名を運送する四層船さえあったといわれている。（「マッテオリッチ伝」）

「は」以外にも「こそ」などの取り立て助詞も用いられる。後半の「にあっては」は対比的用法である。

- (73) しかし問題は講義や概論などという枠組みが、時代の進展に即応しなくなり、あまりにも古臭く活力が失われている実状だ。出版が困難であった中世および近世期にあってこそ、講義は映画の封切と同じく新鮮であり得たろうが、出版文化のはなはだしく隆盛な現代にあっては、世の出版書のすべてに卓越する講義など、ごくごく少数の例外を除いて、そもそも期待する方が無理なのだ。

（「百言百話」）

硬い文章では「～にある以上」のような文脈で用いられることがある¹²⁾。

- (74) 昭和の初期を通して高等文官試験は官僚国家日本にあっては戦後の公務員試験をはるかに上まわる権威を持っていた。

（「マッテオリッチ伝」）

なお、「にあっては」が人に後接する場合は、その人に対しては誰もかなう人はいないという特化した評価をあらわす。「あう」は「遭う」の意味でプラスの評価もマイナスの評価も問わない。多少詠嘆的に相手をからかった

り茶化したりするようなニュアンスがあり、「にかかつては」の意味を表す。口語では「ニアッチャア」のような言い方になる。

(75) 「まあ、武子さんにあっては敵わないわ」 (「友情」)

なお、「にあってか」の形式については今回、用例を見ることができなかつた。

5. おわりに

以上、動詞性後置詞の範疇に分類される「とあって」と「にあって」を中心に主題的な情報の差し出し、情報指示という観点から意味用法の記述を試みた。「とあって」は部分的な注釈・把握、「にあって」は全体的把握といった視点の特徴が見られた。ここで構文的な特徴を比較一覧化しておく。

(76)

| | は | も | か | 逆接 | 丁寧化 | 文末移動 | レバ形 |
|--------|---|---|---|----|-----|------|-----|
| AとあってB | ○ | × | ○ | △ | × | △ | ○ |
| AにあってB | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | △ |

(○は正用、×は非用、△ (? / ??) は不自然をあらわす。

逆接は「×と {あろうが／あろうと}|」、「に {あろうが／あろうと}|」

丁寧化は「△ (三連休) とありまして」、「○ (不況) にありまして」

文末移動は「△ (不況) とある」、「○ (立場) にある」

レバ形は「○ (三連休) とあれば」、「△ (立場) にあれば」

本稿では文頭におかれて事態の必然的な招来、生起をあらわす表現として、「とあって」「にあって」は日本語学習者にとっても似て非なるあいまいな表現でもあることを見てきた。いずれも話し手の事態を背景的な知識、体験にもとづき、俯瞰的、あるいは睥睨する気分から提示されるといった特徴

をもつ。連語的構成から見た場合、「にあって」には「XはYにある」という対象とその所在の連関を明示する点において、引用の後置詞「とあって」には見られない連語的な後置詞、という特徴が看取されることも確認しておきたい。

なお、ここで表現心理的な特徴を附言すれば、「とあって」も「にあって」もともに事態状況への対応姿勢をあらわす点に特徴が見られるが、以上の考察から、前者は〈受動的な事態受容〉をあらわし、後者は〈能動的な事態享受〉をあらわしていると言えよう。

さらに、恒例のイベントの開催などに言及する前触লেরな表現として「とあって」、また状況的な特性を強く打ち出した「にあって」は、一定の文脈構成において重要な要素にもなりうる。話し手、聞き手の双方の情報共有としての談話的な特徴に注目するならば、これらの用法の異同については注意が必要であろう。

なお、本稿では「ときたら」「といえば」などとの相関については詳しく触れることができなかつた。「ある」「くる」「いう」などの基本語からの意味拡張についても今後の課題としたい。

注

- 1) 最近の研究では大塚（2004）、新居田（2004）、張（2006）、久保田（2014, 2017）、韓（2013）、山本（2010）などがある。動詞「ある」の意味拡張については瀬戸（2007）などによるところが多い。「だけあって」については従来「だけに」との比較考察が多く行われているが、ここでは立ち入らない。
- 2) タイ語の例文は田中寛『らくらくタイ語』（国際語学社、2008）p.45
- 3) 英語の例文は『NHK ラジオ英会話』テキスト〈2017.5〉、p.57
- 4) 英語の例文は『NHK ラジオ英会話』テキスト〈2017.5〉、p.53
- 5) 用例（17）は泉原（2007:67）の例を若干修正している。
- 6) 「以上」「からには」などとの置き換えが一部可能である。その場合、「という」を用いるのが一般である。

田中 寛 「とあって」と「にあって」の意味と用法

今回の議員の不倫疑惑、予想以上に深刻だ」とあっては／という以上／というからには、当選しても国会で論議されるだろうね。

- 7) 後半部分で「にあって」との構文的な比較を試みる。
- 8) 「とあって」は「とあれば」「とあらば」のような条件形が観察されるが、「にあって」は「にしあらば」のような古風な言い方を除いて現代語では希少である。なお、条件形後置詞とは「ときたら」「といえは」などを指す。高橋（1982）。
- 9) 前文提示のみの用法で、「先月から始まった国会論戦とある」のような言い切りの用法は見られない。なお、タイ語の訳例（グループジャマシイ『日本語文型辞典』タイ語版 2008）では「とあって」と原因・理由節、「とあっては」を条件節に対訳しているが、かならずしも常に対応するとは限らない。くろしお出版、タイ語版 373-374 を参照。
- 10) 「こともあって」は次のような「ことを受けて」などの言い方とも重なるところがある。原因理由文のゆるやかな形態といえるだろう。

「ローソン」では、加盟店舗から「店員不足で営業を続けられるか不安」との声相次いだことを受けて、今年4月、応援を要請した店舗にスタッフを派遣する取り組みを強化した。（読売新聞 2017.9.23）

なお、動詞テ形の接続辞的な文法化については田中（2010）などを参照。

- 11) 「にあって」は「近代化が進む中（にあって）」のように、しばしば状況節「～中」との類義的特徴が認められる。「なかにあって」はより複合辞的特性をもつ形式といえよう。複文の「中」については別稿を準備中。
- 12) 「にあって」は「陛下にあらせられては」のような敬意特殊表現があるが、これも「にあって」「において」が隣接しているように「先生におかせられては／先生におかれましては」の言い方とほぼ同義である。泉原（2007：66）。

参考文献

- 大塚望(2004)「「～がある」文の多機能性」、『言語研究』125 111-142 日本言語学会
伊藤健人(2015)「「ある」を述語とする所有表現の構文的特徴—「〈拡張型〉所有」と「〈内包型〉所有—」、『群馬県立女子大学国文学研究』35、1-19
泉原省二(2007)『日本語類義表現使い分け辞典』、研究社

- 久保田一充(2014)「「息子は明日運動会がある」構文—「予定」を表す「象は鼻が長い」構文の変種—」、『日本語文法』12(2) 192-212
- 久保田一充(2017)「出来事の発生を表す「～がある」文」、『言語研究』151号 67-87
- 菊地康人(2000)「所有の「ある」と「もっている」」、『世界の日本語教育』10、147-163 国際交流基金
- 韓泌南(2013)「日本語の「ある/いる」構文の類型—命題の意味的特徴に注目して—」、『日本研究教育年報17』33-52 東京外国語大学
- グループ・ジャマシイ(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』、くろしお出版
- 佐伯暁子(2013)「現代語における状況を表す「～(の)中を」「～(の)中」について」、『日本語文法』13-2 54-70
- 白川博之・監修、庵功雄他(1999)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 瀬戸賢一(2007)「メタファーと多義語の記述」、楠見卓編『メタファー研究の最前線』、31-61 ひつじ書房
- 高橋太郎(1982)「条件形後置詞の意味と用法」、渡辺実編『副用語の研究』、明治書院
- 田中寛(2004)『日本語複文表現の研究—接続と叙述の構造—』、白帝社
- (2010)『複合辞から見た日本語文法の研究』、ひつじ書房
- (2013)『現代日本語形式語用例用法辞典(試作版)』、私家版
- 張麟声(2006)「現代日本語の存在表現」、森山卓郎・野田尚史・益岡隆志編『日本語文法の新地平Ⅰ』くろしお出版
- 角田大作(1990)『世界の言語と日本語』くろしお出版
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 新居田純野(2004)「人の〈特性〉と〈状態〉をあらわす存在文—「～がある」形式について—」、『日本語文法』4(2) 202-213
- 日本語記述文法研究会[編]『現代日本語文法⑥第11.部複文』、くろしお出版
- 丹羽哲也(2015)「存在文の分類をめぐって」、『国語国文』84-4 260-280
- 野田大志(2017)「現代日本語における動詞「ある」の多義構造」、『国立国語研究所論集』12 81-110, 国立国語研究所

田中 寛 「とあって」と「にあって」の意味と用法」

山本雅子（2010）「存在表現「ある」「いる」の意味—事態解釈の観点から—」、『言語と文化』22、55-71 名古屋大学

用例出典：

北京日本学研究中心編『日中言語コーパス』（2002）。出典明記のないものは作例。